

神様はじめました 第1期 第6話

タイトル: 神様、風邪をひく

キャラ リスト:

桃園 奈々生、巴衛、鬼切、虎徹、瑞希、鞍馬、猫田 あみ、上島 ケイ、悪羅王、磯辺、妖怪たち、学生たち、先生たち、ナレーター

Japanese script from GUREN (kitsunekko.net)

English translation from Gogoanime subtitles

Transcribed and organized by Kiriban

奈々生 (考え) 社に戻って二日目。

(考え) 昨日から、私は変だ。

巴衛 おはよう、奈々生。

奈々生 あっ…。

巴衛 どうした？ 顔が赤…。

奈々生 赤くないわ！

(考え) こんなはずじゃないのに…。

(考え) あれから、私ばかりドキドキして…。

巴衛 何だ？ しょうゆか？

奈々生 いいえ。

(考え) ちょっとムカつきます。相手は狐だもんね。平常心、平常心、平常心…。

あっ…！

巴衛 やはりお前、熱があるではないか。

奈々生 えっ？

嘘...39度8分？

虎徹 なんという高熱！

鬼切 学校はお休みください、奈々生様！

奈々生 あっ、大丈夫、これくらい。

それに、出席率が崖っぷちな。これ以上休んだら留年しちゃう...

虎徹 と...巴衛どの！奈々生様を！

奈々生 うう...離して...

あっ...

巴衛 こんな体では、行かせられないな。

よい機会だ。学校などしばらく休んでいればよい。

奈々生 ひ...他人事だと思って勝手に言わないでよ！

(考え)ていうか手！手～！

巴衛 俺はお前のためを思って言っているのだ。

虎徹 それでしたら、巴衛どのが奈々生様に化けて...

鬼切 ...代わりに学校へ行かれてはいかがでしょうか？

巴衛 ああ？

奈々生 それだわ～！

ナレーター というわけで、今日の桃園奈々生は一回お休みさせていただきます！

奈々生 うっ...すみません。

磯辺 桃園今日も欠席じゃねえ？

留年の足音が聞こえてくるな！つーわけで、桃園の欠席に賭ける奴300円から～！

男子 磯辺って、桃園のことになるとやたら盛り上がるな。案外好きなんじゃねえの？

磯辺 プッフ！勘弁しろよ～！日の丸弁当の桃園だぜ～！

 面白ネタにしかなんねえっつの！

奈々生 (巴衛) おい。

磯辺 おお？

奈々生 (巴衛) すまないが、そこは確か私の席だ。
 どいてくれるか？

磯辺 (考え) も...も...桃園奈々生！

男子 なんだ、あのオーラは？桃園ってあんなんだっけ？

磯辺 バックに花が...心なしか胸もでかく...

巴衛 (考え) 奈々生の奴め...この付けは必ず払わせてやるからな。

 あっ...

鞍馬 おはよう。

 1週間振り...超多忙スーパーアイドルドラマ様のご登校だ。

女子たち きゃああ～！

巴衛 (考え) 天狗？！

鞍馬 これロケ土産。

 ん？奈々生、お前...

奈々生 (巴衛) あっ...！

鞍馬 ... ちょっと見ない間に、女らしくなってるじゃないか。胸とか。

巴衛 (考え) 間抜けな天狗め...俺の変化の術は完璧だ。学校など、楽勝だな。

鞍馬 何！狐が転入？！

男子たち うん。女子が大騒ぎしてたよな？

今日は病欠らしいけど。

でも俺、クラマくんのほうがカッコいいと思うな！これ、現国のコピー！よかったら…。

鞍馬 (考え) マジかよ…くそ。仕事で空けてた間にそんなことになっていたとは…。

(考え) 狐の居ぬ間に奈々生との仲を深めるつもりだったが…急いだほうがよさそうだな。

先生 じゃあ next page。

Head から read してくれ please、Miss 桃園。

巴衛 (考え) 何だ、この文字は…。

先生 どうした、Miss 桃園？早く読みなさい。

鞍馬 フツ…先生。奈々生は病み上がりで大きい声が出ないんです。代わりに俺が。

(英語) “All night their course lay through intricate defiles and over irregular and rock-strewn paths.”

(英語) “More than once they lost their way, but Hope’s intimate knowledge of the mountains…”

女子たち さすがはクラマ様！

発音美すぎる！

鞍馬 (考え) どうだ、奈々生？

あれ？

ナレーター 二限目！

学生たち ♪ 太陽に輝く純白のウイング

先生 は～い、ストップ！桃園さん？

あなただけ音が外れているわ。もう一度歌って。

奈々生 (巴衛)

♪ 太陽に輝く

先生

そこがちょっと...ダメね。

じゃあ、ここは...プロの歌手にお手本見せて頂こうかしら！

女子たち

きゃああ～！

鞍馬

オッケー。

♪ 太陽に輝く純白のウイング

♪ 喜びに至る体舞い上がる

♪ ハレルヤ！全てはこの歌の中に

女子

うわあ...クラマ様の生歌！私もう死んでもいい！

磯辺

すげえ。合唱曲なのに...

鞍馬

(考え) フン...聞き惚れたか、奈々生？

あれ...あれ？

鞍馬

奈々生。

どうした？今日のご機嫌斜めだな。

悩み事があるなら、相談に乗ってあげる...

奈々生 (巴衛)

貴様に一つだけ言っておく。

邪魔だ。私に付き纏うな。

鞍馬

えっ？

奈々生 (巴衛)

お前が欲しいのはこの心臓なのだろう？私の神籍を狙っているのは知っている。無駄なことだ。

鞍馬

参ったな。それでずっと悩んでたのか。悪かったよ、気づかなくて...

だが誤解だ。

女子たち うわああ！

クラマ様！

手...手...手～！

鞍馬 俺が本当に欲しいのは、君のハート。

女子たち きゃああ！

奈々生 (巴衛)

んっ！

鞍馬 (英語) Ouch!

奈々生 (巴衛)

次触ったら殺す！

鞍馬 てゆうか、お前顔を...

んっ...奈々生！

これはマジな話なんだけど、この学校の瘴気が、以前より濃くなってる。あまり一人で暗い所に行くなよ。

巴衛 (考え) 瘴気？

(考え) ふーん...確かに以前より影が濃い。暗闇は、あちら側への入口。

(考え) この瘴気...どこかで入口が開いたか...

あの天狗も、ただの間抜けじゃなかったらしいな。

ケイ あみ！早くしないと始まるよ？

あみ 待って～！ハチマキが見当たらないの！ここに置いてたのに...

ケイ トロいんだから、先行くよ。

あみ あっ...ケイちゃん！電気消さないでよ！真っ暗で何も見えない！

ケイちゃん？

(考え) やだ...一人になっちゃった。ここ地下だからドア閉めると光が入らないのに...

ああ...ケイちゃんのバカ～！

妖怪 可愛い可愛い女の子...甘い甘い飴の味...

あみ あっ...

妖怪 お前はどんな味？

あみ えっ？

妖怪 ペローン...いちご味！

あみ ぎゃあああ～！誰か～！

うわあ！

あっ...

奈々生 (巴衛) 探したぞ、二組女子。

あみ も...桃園さん！お化けが！お化けが出たの！あみの顔、ペローンって舐めたの！

奈々生 (巴衛) わかっている。

あちら側からの来客だ。

あみ あっ...

奈々生 (巴衛) お前は先に授業に行け。

あみ 桃園さんは？

奈々生 (巴衛) 私は用を済ませる。

あみ でも...

奈々生 (巴衛) 行け。邪魔だ。

あみ あっ...

あっ...ああっ...。

ケイ あみ！

あみ ハッ...。

ケイ もう先生来てるよ！

あみ ケイちゃ〜ん！

ケイ まったく、トロいんだから。あんたと桃園さんだけだよ、まだ来てないのは。

更衣室で、桃園さん見かけなかった？

あみ あっ...ケイちゃん...。

先行ってって〜！

ケイ えっ？あみ？

妖怪 俺ここ好き。女の子たくさんやってきて脱いでくれる。俺それ見てただけ。悪くない！だ...だから...燃やさないで〜！

巴衛 痴漢まがいの低級妖怪め。

妖怪 えっ...。

巴衛 俺が手を下すまでもないのだが、奈々生のために...

妖怪 えっ...。

巴衛 ... 後々の面倒事は片付けておかねばな。

妖怪 ええっ...。

巴衛 やれやれだ。

あみ 桃園さん！

奈々生 (巴衛)
あっ...。

妖怪 へっ...。

ペローン！

お前味しない！おいしくない！

奈々生 (巴衛)
待って！

妖怪
お前嫌い！いちご味～！

あみ
あっ…。

妖怪
ペローン！

鞍馬
そこまで。

妖怪
うう…。

あみ
あっ…クラマくん？

鞍馬
だから暗い所に行くなって言っただろう、奈々生？

妖怪
痛い、痛い…。

奈々生 (巴衛)
クラマ。

妖怪
えっ…。

奈々生 (巴衛)
その娘を連れて外へ出ている！

妖怪
うっ…。

あみ
あっ！

妖怪
あああ！あああ！

あみ
あっ…おっ…ああっ…。

あ…あの、クラマくん、今のって一体…。

鞍馬
大丈夫。早く授業に行ったほうがいいよ。

あみ
でも、桃園さんが…！

鞍馬
今日のことは、僕らだけの秘密にしとこう。約束してくれるよね。

あみ
う…うん…。

鞍馬 入るぞ。

さっきの妖怪は？逃がしてやったのか？

まあいいけど。気をつけろよ。

俺は狐みたいに、いつでもそばで守ってあげられるわけじゃないから。あいつのいない時は、無茶するな。

奈々生 (巴衛)

フツ…。

では明日から、巴衛に出てきてもらわねばな。

鞍馬 ん？

奈々生 (巴衛)

やる。

虎徹 先程とったばかりのスッポンでございます！

鬼切 スッポン鍋を食せば奈々生様のお風邪も治りましょう！

瑞希 奈々生ちゃん亀とか食べちゃうの？悪食。僕、亀の捌き方なんて知らないよ？

奈々生 てゆうか…どうして瑞希がうちの台所にいるの～！

瑞希 えっ？今日は巴衛くんがいないって聞いてね。奈々生ちゃんに会いに来たんだ。そしたら彼らに、昼食を頼まれて…。

痛い～！

虎徹 あっ！スッポンが瑞希どのの指に！

鬼切 水じゃ～！

ナレーター 巴衛が奈々生に化けて学校に行っているころ…ヨノモリ社の神使瑞希が、奈々生のもとに訪ねてきておりました。

瑞希 えー？巴衛くんが女装して学校に？

奈々生 てゆうかそこ、亀まんま鍋に入れたら殴るよ！

瑞希 奈々生ちゃんの言霊縛りって強烈なんだねえ。

奈々生 そんなの使わないよ。お願いして行ってもらったの。

瑞希 お願いねえ...巴衛くんって、君の前では相当猫かぶってるんだなあ。

奈々生 何よ、それ...。

瑞希 彼はもともと野狐だからねえ。主人の君が、しっかり舵取りをしないと...。

奈々生 瑞希、そんな風に巴衛のこと、言わないで。

 見かけとか生まれとかで、勝手に判断して欲しくない。一緒にいる私が、一番巴衛のことわかってるから。誤解されやすい奴だけど...優しいところもあるんだよ。

瑞希 やっぱり...

奈々生 ん？

瑞希 ...丸め込まれちゃってるねえ、奈々生ちゃん。

奈々生 えっ？

瑞希 さすが巴衛くんと言うべきか...神使は神の僕なのに、飼いならされているのは、むしろ君のようにも見える。

 油断してるとあの獣に寝首をかかれちゃうよ？

奈々生 だから巴衛はそんなんじゃないってば！

瑞希 ハア...頑固だな、奈々生ちゃんも。

奈々生 どっちが！

瑞希 じゃあ、その目で覗いてみるといい...巴衛くんの、本性を。

奈々生 あっ...。

鬼切 瑞希どの、この香炉は...。

瑞希 うん。これは時廻りの香炉。魂を過去へ運ぶ、神具だよ。

 君が生まれるずっと昔...そこに、君の知らない巴衛くんがいる。

奈々生 (考え) 私の知らない巴衛？

鬼切、虎徹 奈々生様？

瑞希 大丈夫。奈々生ちゃんには少しだけ...時の狭間で遊んでもらおう。

 覗いてきてごらん。君の生まれる、ずっと昔...君と出会う前の巴衛くんを。

奈々生 うっ...いった〜...。

 ちょっと...巴衛の本性って、一体何がどうなってるのよ？

 あれ？

 私、こんなに手小さかったっけ...。

 服も...髪も...これは...

 (考え) ... 別人の体！

 (考え) そっか！夢の中なんだ、ここはきっと！

男子 ううっ...。

奈々生 えっ？

男子 痛いよ...ううっ...痛いよ...ううっ...。

奈々生 (考え) 子供！

 僕...どうしたの？

男子 お姉ちゃん...村に、戻っちゃだめだ。妖怪の奴らが...攻めてきて...。

奈々生 妖怪？

男子 悪羅王が、お姉ちゃんのことを、探してる。僕...必死で逃げてきたけど...皆、あいつに...。

奈々生 (考え) 悪羅王？妖怪が私を？

 (考え) これは夢なの？

奈々生 近くに空き屋があって助かった。ボロだけど、雨ならしのげるわ。

随分濡れちゃったね。

(考え) 傷の手当てをしなきゃ。

(考え) 子供に、こんな酷い怪我させるなんて…。

男子 でも僕ついてたよ。お姉ちゃんが畑仕事で偶然村を留守にしててさ…。

こんな上玉の生娘、悪羅王様が見逃すはずないものね。

妖怪 うううっ！

奈々生 んっ！

妖怪 めぼしい獲物はみんな取り上げられちゃうからな。

奈々生 (考え) 嘘…妖怪？

妖怪 悪羅王様に見つかる前に、俺が美味しく頂いてやるよ。

奈々生 (考え) 誰か…！

妖怪 うああっ！うううっ！

と…巴衛…さ…ま…。

奈々生 (考え) 狐火…。

巴衛 屑はよく燃える。

村の娘か？

奈々生 (考え) 巴衛…。

うっ！

巴衛 確かにちっぽけな集落の人間にしては、なかなかよい玉だ。

奈々生 (考え) 巴衛？

ああ！

巴衛 声もいい。

奈々生 うっ…。

巴衛 鳴いてみろ、人間。

奈々生 (考え) 巴衛じゃ...巴衛じゃない！

んっ！

誰よ...あんた？

巴衛 フツ...。

奈々生 うっ...。

ケイ 巴衛！

奈々生 んっ！ううっ...。

んっ...。

ケイ 巴衛...いないと思ってたらこんな所で油売ってたのかよ。

奈々生 (考え) 誰か来た。今のうちに逃げなきゃ！

巴衛 雨宿りだ。濡れたくないからな。

奈々生 あっ...。

ケイ 付き合い悪いな。

美人がいるって聞いてきたのに、村には婆としこめしかいねえ。

パラパラ逃げた奴も多いからなあ。混じってどっかいつちまったか。

巴衛 小娘にまで逃げられるとは、焼きが回ったな、悪羅王。

ケイ ヘッ...お前、この辺で若い娘見なかったか？雪路って女なんだが。

巴衛 さあ。

瑞希 (過去) 彼はもともと野狐だからねえ。油断してると...

奈々生 (考え) 違う...。

瑞希 (過去) ... 寝首をかかれるよ。

奈々生 (考え) 違う！

ああ...あああ！

奈々生 (考え) そっか...これはきっと夢なんだ。

瑞希 奈々生ちゃん。

奈々生 あっ...ああ...。

瑞希 随分長く飛んでたねえ。

奈々生 ここは...。

瑞希 君の社だよ。

虎徹 奈々生様！お目覚めが遅いので心配しました！

奈々生 体が重い...私、寝てたの？

瑞希 いや、君の魂を、過去の時流に送ったんだ。君が見たのは、現実とリンクする過去の世界。

巴衛くんに、会えた？

奈々生 あっ...。

会えなかった。

巴衛 誰に...

瑞希 いつ...。

巴衛 ... 会えなかったって？

どうして蛇男がここにいる！

瑞希 アハハハ！巴衛くん、お帰りなさい！学校楽しかった～？

巴衛 貴様ここで何をしている？奈々生に何してたのだ？

瑞希 エヘヘ...ヒ・ミ・ツ！

巴衛 帰れ！

瑞希 うああああ～！

巴衛 あの蛇野郎...なぜ社に入れたのだ！

鬼切 奈々生様にスッポン鍋をと…。

巴衛 鍋とあいつとどう関係がある！

奈々生。

奈々生 あっ…。

ハツ…。

巴衛 熱は…少しある。

何か作ってやるから…寝ているといい。

奈々生 (考え) この手だ…優しい巴衛の手…。

うん…ううっ…。

巴衛 どうした！瑞希に何かされたのか？

奈々生 怖い夢を見ただけだよ…。

だから大丈夫…ありがとう…。

(考え) 私の知ってる巴衛、この人でよかった。

ところで、巴衛のほうは学校どうだった？